



看護研究発表会

テーマ

- ① 待ち時間有効利用の取り組み
ーDVD上映を実施してー

外来：奥 麻衣

- ② 脳梗塞発症後せん妄を起こす患者の様々な因子・要因が
与える影響の検討

4西：中山 加奈子

- ③ より効果的な経鼻経管栄養の方法の検討
ーREFの有効活用を試みてー

4東：園田 佑樹

- ④ 整形外科病棟における褥瘡発生の特徴

3西：田代 竜也

- ⑤ 国際生活機能分類（ICF）を活用した退院支援
ー看護師の意識調査から見えてきたものー

回復：村岡 佐世子

- ⑥ 経過報告：効果的なポジショニング
ー褥瘡発生ゼロを目指してー

3東：柏川 優

- ⑦ 実践報告：手術看護倫理の一考察

ータイムアウト再導入に看護目標の発言を取り入れてー

手術室：村尾 智子



総評

3月4日、ステップ研修を中心に進めてきた看護研究発表会に90名の参加がありました。研究計画書作成から発表まで2年間の努力が形になり発表を終えてほっとしていることと思います。年々参加者が増え、発表形式や発表態度も学会に沿った雰囲気になっているように思います。また、学会が応募条件に挙げている倫理的配慮が十分なされていると思います。研究に積極的に協力してくださった方、事前に質問用紙を活用して質問してくださった方など、研究を支えてくださいました。時間の関係で事前に集めた質問が十分活用できるよう次年度は工夫します。是非、研究に手を加え、学会発表を目指してみてもはいかがでしょうか。これからも看護研究が充実していくよう頑張っていきましょう。

手術室師長 村尾



今回、看護研究発表会の書記を担当させて頂きました。看護研究発表会は20回近く参加していますが、年々看護研究者たちの成長を感じています。私が看護師4年目で看護研究班だったころは、どこの病棟も頭としっぽ（はじめにとまとめ）が違うような、どこかちぐはぐな研究ばかりだったことを覚えています。今年度の研究で印象的だったことは、先行研究の有効活用がなされたり、経時的に実験データを明らかにしているところでした。現場に即した内容ですぐに実践できるものだと感じました。私自身も現場の疑問を看護研究で明らかにし世の中に示す役割があると思っています。今回の研究発表会では私と同じように参加した多くの看護職員に刺激を与えたと思います。これからもこのような素晴らしい取り組みが続いていく事を祈っています。研究発表に携わった皆様お疲れ様でした。

包括ケア病棟師長 濱田

スターティング研修 「模擬患者(SP)研修」の報告



模擬患者 SP (simulated patient) とは

医療関係の授業や演習などで導入。

模擬患者との会話でそのような状況を経験し、その時の患者が感じたことを率直に教えてもらうことで、患者にとって何が重要であり、自分に何が足りないのかに気づき、よりよいコミュニケーションの方法を身につけることが目的です。

4階西病棟 小山

外部より2名の講師をお招きして模擬患者を演じていただき、数名にコミュニケーションを行なってもらい、それぞれ振り返りをして意見を出し合いました。コミュニケーションの方法や特徴に違いはありますが、話を聴く姿勢や言葉の選び方、声のトーンなど、患者さんに寄り添った対応ができていたと思います。専門職として知識を持って関わることでより患者さんの安心につながるような関わりになっていくと思いますので今回の学びを今後の看護の場面に活かして欲しいと思います。

今回、4人が看護師役で、2つの事例を通して模擬患者との対応を実施しました。看護師によって患者さんとの間の空気感や雰囲気が変わることに気付きました。誰が良くて、誰が悪いなどの答えはないですが、人それぞれ持っている知識やコミュニケーション能力、性格・雰囲気が違い、提供する看護も異なり、変わってくるのだと感じました。個々の対応についてディスカッションすることで、自分に足りない部分を見出すことが出来ました。今回の学びを無駄にしないように、もっと知識やコミュニケーション技術を磨いて、より質の高い看護が提供できるようにしていきたいです。

4階西病棟 原口

ウォーキング研修「事例発表」の報告

今回は7名が事例を発表しました。発表のテーマでは退院支援や離床などがありましたが、特に癌患者さんとの関わりの事例が多く、本人だけではなくその家族との関わりを通じた看護の発表でした。自分の行ってきた看護展開の見直し、個々が自分の行動や言動など、文献を通し看護介入の仕方やその時どのように行動すればよかったのか、振り返りができていたと思います。事例で学んだことを活かし病棟スタッフ、他職種と連携を図りながらよりよい看護の提供に繋げてほしいと思います。



4階西病棟 飯田

⇒ e-ラーニング研修報告

「みんなで共有できる病棟目標の作成」を受講して

今回、病棟目標の作成について受講しましたが、今までの自分を振り返ってみると、病棟目標を決める目的や内容の充実さなどあまり考えていなかったと思います。ただ自分達は何をしたいかを目標にあげただけだったのではないかと考えさせられました。病棟目標を決める際、現状を分析し、達成可能な目標にすること。目標を立てっぱなしにせずに、1年間の見通しをしっかりと立てておくことの大切さを学びました。何よりスタッフ全員が積極的に取り組めるような、全員で取り組んで成果を出せるような目標にすることが大切であるということを学びました。今後、病棟目標を決める際、今回学んだことを生かしていければと思います。

4階東病棟 揚野

「医療者にとって本当に必要な接遇とは何か」を受講して

これまでに様々な接遇研修を受講してきましたが、毎回、毎回、忘れかけていた何かを思い出させてもらい、ドキッとさせられる瞬間です。普段の何気ない挨拶の場面でも、笑顔で挨拶し相手に伝わったつもりでいても、つもりでは伝わらない事もあり、今までに幾度となく失敗をしています。その都度自己を振り返り反省し、挨拶の音量やお辞儀の深さ、口角を上げ表情を作るなどして改善に心がけています。

最後に、思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。



《マザー・テレサ》

外来 吉永

院外研修報告

「実習指導者講習会」に参加して

3階東病棟 松浦

指導者として必要な知識や具体的指導方法を学び他施設の研修生と意見交換する中で視野が広がり、自分の看護観や指導観を見つめなおす良い機会となりました。臨地実習の場を授業と成り立たせるために学生個人に関心を持ち指導者と学生の相互関係で学ぶ姿勢とそのプロセスを大事に学生が主体的に学ぶための内発的動機づけを行い、実習での看護場面をどのようにして意味付けしていくのかが大事だと学びました。研修前に抱えていた実習指導での悩みの答えが見いだせたと思います。研修で学んだことを伝え、看護の喜びややりがいを学生と共に体感できるような環境作りに取り組んでいきたいと思います。

「新人看護職員卒後研修実地指導者研修会」に参加して

手術室 小浦

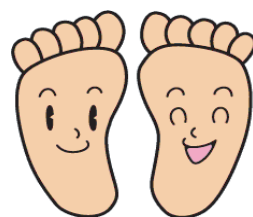


これまで新人教育・学生指導に5年ほど携ってきました。今回初めて「新人看護職員卒後研修実地指導者研修会」に参加させて頂きました。「教育・指導を行いうこと」をテーマに3日間の研修を通して学びました。今までの自分の指導内容の振り返りやこれから目指す教育・指導方法をより深く考える事が出来ました。自分の指導方法を見つめなおすためにもまだ参加されてない方は、是非参加してみてください。学ぶ機会を与えて頂きありがとうございました。

「糖尿病重症化予防研修～フットケア～」に参加して

地域包括ケア病棟 黒武者

昨年、糖尿病臨床技術研修会に参加し、もっと糖尿病患者さんへのケアを学びたいという思いが強くなり、今回の「フットケア研修」に参加しました。看護師としてのフットケアの意義、足を観察する事の重要性、“患者さん自身が自分の足のことを理解し、自分の足に合ったケアを自分でできる”ように看護師が援助していく事の必要性を学びました。また実際にフットケアの体験を行い、看護師の声かけやちょっとした行動が患者さんへ安心感を与えたり、逆に不安を与えてしまうことを体験できました。今回の研修で学んだフットケアの技術を患者さんと共に実践し継続して行えるような関わりをしていきたいと思います。



平成28年1月22日 平成27年度日本看護協会重点事業 「看護師のクリニカルラダー(案)と キャリア開発に関する経過説明会」に参加して

教育担当師長 小牧

日本看護協会は、生涯にわたり生活と保健・医療・福祉をつなぐ看護、「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を将来のビジョンにあげ、達成に向けた活動の方向性に、看護師クリニカルラダー開発(案)をしました。看護師の能力構造の中で、核となる看護実践能力に焦点が当てられ、求められる看護実践能力を4つの力(カテゴリー)に分け ①ニーズをとらえる力 ②ケアする力 ③まわりと協働する力 ④意思決定を支える力としました。4つの力は密接に関連し、どの場においても発揮される。ということです。具体的に示された内容に、当院のクリニカルラダーの見直しも検討する必要性を感じました。標準化されたことで、当院のラダーとすり合わせを行い一定レベルのクリニカルラダーができるのではないかと考えます。早急な見直しに取り組み、人材育成に取り組んでいきたいです。

スターティング研修「ナラティブ発表会」の報告

3階東病棟 福岡

2月9日、スターティング研修のナラティブ発表がありました。ナラティブの目的とは、心に残っている看護場面を物語として書くことで振り返り、その時の自己の心の動きや行動、それによる相手の反応などから深めることです。看護師として働き始めてから約一年間で、様々な患者様と出会い、自分の体験や看護観を聞くことができました。同じ経験をしても、人によって経験の学びは異なり、看護実践も異なってくると思います。その経験と学びを一つの知識として大事にしたいと思います。

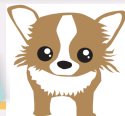
ミニナラティブ

「初めて受け持った患者との関わりを通して学んだこと」

4階東病棟 杉園

新人の私がAさんの受け持ちをすることになった時、点滴の自己抜去などの危険行為があり、右上肢の拘束をしていました。「右手のベルトはきつくありませんか、自由に動かせないからきついんですね。」と声をかけましたが、何も答えません。その後も声かけに対する反応はなく、聞かれる言葉は「しないでください。」という言葉でした。何をしないでほしいのか尋ねても何も答えません。その時はAさんには認知面での問題があり、意思疎通が困難であると思っていました。ある日、「Aさん、おはようございます。」と声をかけると、「いじめないで下さい。」と言われました。何もしていないのになぜそんなことを言うのか尋ねると、「私がしないで、と言うのに鼻から管をいれたり、注射をしたりするでしょう。」と答えました。治療や処置の必要性を説明すると「知っている。私は心臓と腎臓が悪くてその治療をしているの。でも痛いでしょう。だからしてほしくない。」と話されました。3ヶ月間関わってきて初めてAさんの思いを聞いた瞬間でした。同時に認知症による意思疎通困難であると思っていた自分が間違っていたことに気づき、臨床倫理について考えさせられた経験となりました。この出来事があってからケアや処置時の対応や言葉をかける際には十分な配慮に心がけています。この経験を通して倫理的な配慮の重要性を学ばさせていただきました。

マイブーム



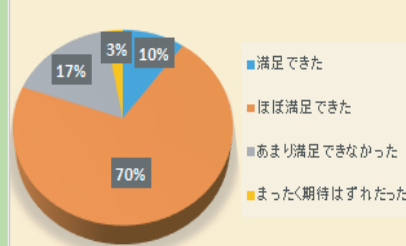
3階西病棟 原園

私の実家では5歳になるチワワを飼っています。名前はダニエルです。妹が友人から譲り受け、実家で飼うことになりました。実家に来たばかりのころはリビングの椅子の下に潜り込んで怯えるように私たちを見つめていたのを思い出します。今では、やんちゃで家中を元気に走り回り、少し油断をすると家の外へ元気よく走り出してしまうくらいです。私がたまに実家に顔を出すと、尻尾をブンブンと振りながら走り寄ってきて傍から離れようとしないうちにダニエルがとても可愛くて、疲れも一気に吹き飛びます。
“おなかがいいたよ” “ねえ遊んでよ！もっとかまって！”など意思表示をする方法が色々ありますが、前足で私たちの手の上に置いて来たりするときはすごく可愛いです。我慢できない時は大きな声でワンワン吠えて、ご飯をあげたり、座って一緒に遊んだりするまでやめないのは少し困っています(笑)。いずれにしても我が家の癒しです。

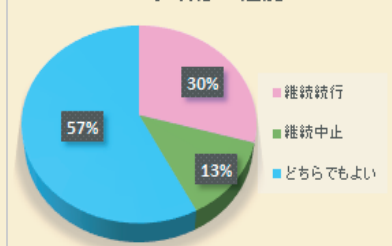
学研e-ラーニング研修アンケート調査結果

今年度も継続することにしましたが、受講方法の一部変更を検討しています。看護職の皆さんが自主的に受講し自己研鑽ができる機会となることを期待します。

e-ラーニング研修システムの満足度

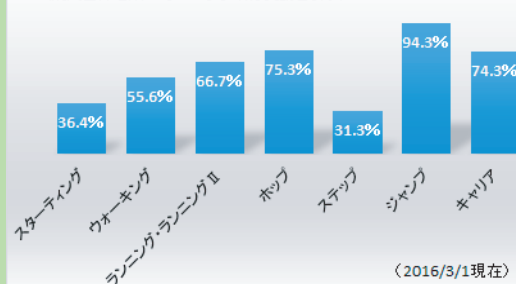


e-ラーニング研修の継続について



ラダー別必須e-ラーニング研修受講率

(院内全体必須 e-ラーニング研修受講含まず)



(2016/3/1現在)



編集後記

一年間を振り返り、来年度へ向けた目標を考える季節が巡って来ました。

信頼に足ること
時間を厳守すること
静かに、そして秩序を守ること
清潔に、そして清楚に
忍耐強く、朗らかに、そして親切に
フローレンス・ナイチンゲールの詩より (小牧)

